

## 平成 21 年度事業報告（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）

寄附行為より

第 4 条 この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 日本の伝統文化及び現代芸術の分野における優秀な新人及び文化・芸術の研究者に対する助成
- (2) 日本の伝統文化及び現代芸術を展示、公演する文化芸術祭の開催
- (3) 日本の伝統文化及び現代芸術の分野で著しい貢献をした者に対する顕彰
- (4) 芸術系大学等に在学する学生に対する奨学金の給付または貸与
- (5) 文化・芸術の交流を通じて国際社会の相互理解を促進する事業
- (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

### ■平成 21 年実施事業

#### 1. 育英事業（寄付行為第 4 条（4））

##### ○実施概要

##### A) 対象

国内の芸術系大学の 3 回生・4 回生または大学院に在学し、絵画・彫刻・工芸・建築（造園を含む）・デザイン（グラフィックデザイン及び工業デザインのみ）の実技部門を専門としている学生

- B) 給付人数及び金額・・・大学生 2 名 1 名につき 1 年間 30 万円の給付  
大学院生 2 名 1 名につき 1 年間 50 万円の給付

C) 4 月上旬に実技部門のある芸術系大学に応募要項を送付

D) 応募方法・・・芸術系（実技部門）の大学を通じて以下の書類を提出

書類：①奨学生願書②学科専任教官の推薦書③成績証明書、

E) 募集期間・・・平成 21 年 5 月 7 日～平成 21 年 5 月 15 日当日消印有効

F) 応募状況・・・大学生 29 名 大学院生 68 名

##### ➤ 特記事項

① 本年度は昨年度に比べ 7 名の応募者増であった。要因としては、経済情勢の影響が大きく関わっていると思われ、今後も増加傾向になると推測される。

② 新規応募の大学が 4 校であった。

##### ➤ その他（改善事項等）

① 大学の名称変更・統合／学部名称変更などを踏まえ、案内送付先を見直し、今年度より 16 校送付先を追加した。

G) 選出・・・応募書類を基に奨学生選考委員会にて審議選考の上、理事会で決定  
選考委員会

➤ 開催日 平成 21 年 6 月 1 日（月） 13：30 ～ 15：00

➤ 出席者 久谷政樹委員長 野呂芙美子委員 宮本武典委員

事前に選考書類提出 井上隆邦委員 徳山豊委員  
事務局：寺脇事務局長 高木 前川

➤ 選考方法

【大学生】各委員より事前に選考した候補者を数名ずつ選出し、本審査にて各候補者の推薦理由をそれぞれ挙げた上で、審査を行い、過半数を超えた候補者上位2名を選出した。

【大学院生】各委員より事前に選考した候補者を数名ずつ選出し、本審査にて各候補者の推薦理由をそれぞれ挙げた上で、審査を行い、過半数を超えた候補者上位2名を選出した。

【決定】第31回理事会、評議員会において選考委員会より選出された者に決定した。

➤ 【大学生奨学金給付者】 給付金 30万円

榎 貴美 (さかき たかみ)

東京造形大学 造形学部 美術学科 4年 (26歳)

(選考事由) 卓越した描写力の持ち主だが、今日の表層的な絵画表現に組み込むことなく、現代に生きる小さき者・弱き者の姿を真摯に描いている。ときに自己の内省や記憶にも言及しながら「描く」ことを通して、社会、学校、家族など、様々な集団の生成における歪みや痛みを手探りでみつめ、考察していこうとする姿勢に、芸術家としての深い精神性の発露と、将来性が期待できる。

中林 大昴 (なかばやし ひろたか)

東京工芸大学 美術学部 デザイン学科 4年 (21歳)

(選考事由) 機能性と遊び心を兼ね備えたプロダクトは、たいへん高いクオリティを有しており、またコミュニケーションの誘発する仕掛けや、災害時の活用なども配慮されている点において、優れて今日的である。また、在学中から多くのコンペティションに意欲的に挑戦し、受賞を重ねている事実からも、「世の中に希望と感動を与えられるデザイナーを目指す」という、氏のデザイナーとしての高いモチベーションと、確かな資質が感じられる。

➤ 【大学院生奨学金給付者】 給付金 各50万円

水野 悠一郎 (みずの ゆういちろう)

東京芸術大学大学院 美術研究科 建築専攻 修士課程2年 (26歳)

(選考事由) 「皺壁空間」、「根っこが表出したような集合住宅」は、物理的な実現性はともかく、建築領域に偶然性や身体性を持ち込んだインパクトのある設計プランであった。これらの建築作品は、氏がアトリエの中でだけ建築を思考するのではなく、20ヶ国以上の国々をめぐる旅を通して出会ってきた、多様な文化や風土との感応の結果として生み出されたのである。秋からリヒテンシュタイン公国への留学が決まっているということ

から、海外でのさらなる学びに期待したい。

奥村 雄樹 (おくむら ゆうき)

東京藝術大学大学院 美術研究科 油画専攻 博士後期課程 2年(30歳)  
(選考事由) 人間の生理的な反応を誘発・混乱させるような、氏の実験的なビデオ作品やインスタレーションは、日本の現代美術シーンにおいてすでにひろく知られるものであり、欧州やアメリカなどでもレジデンスや国際展に参加し、海外経験も豊富である。また、制作活動だけでなく、美術批評や美術史研究にも意欲的である。若手アーティストとしての地位を確立している氏への顕彰においては、蓄積してきたアーティストとして経験を活かし、地域社会に根ざした知の還元を求めている。

H) 奨学金給付・・・通知後、本人の口座に、7月と10月の2回に分割して給与

## 2. 平成21年度助成顕彰事業(寄附行為代4条(1)(3)(5))

### 第1回「創造する伝統賞」の実施

#### 実施概要

#### A) 「創造する伝統賞」受賞者

- ◇ 鈴木 俊哉 (48歳)                      リコーダー奏者
- ◇ 宮永 愛子 (35歳)                      美術家
- ◇ 伊砂 利彦 (85歳)                      型絵染め作家、図案家

#### ・これまでの助成顕彰事業との変更点

- ① これまでの4つの賞の名称を統一し、財団の趣旨を表現する象徴的な名称に変更した。
- ② 外国人研究者助成金を廃止し、国籍を問わず賞の対象とした。
- ③ 応募方法としては、レベル向上および「創造する伝統賞」の対象としてふさわしい応募者を多く審査のステージに上げる施策の一つとして、公募制に加え、財団の趣旨を良く理解しご協力いただける推薦委員を選出し、推薦応募制の両輪での募集を行なった。

\* 推薦委員は、旧選考委員、歴代授賞者の中から依頼した。

#### B) 募集・告知・応募要項の送付

告知 : 平成21年10月1日日本文化藝術財団のホームページ

広報活動 : ちらし、ホームページによる告知、専門誌・関係誌にリリース、

発送先 : 美術館、博物館、大学、大使館、海外日本文化研究機関、評論家  
助成顕彰受賞者、会員等、資料請求者      発送件数 約1200件

C) 受付期間      平成21年11月1日～平成21年11月30日 当日消印有効

D) 応募状況      51件

一般公募・・・44名

推薦応募・・・7名

- ・一般公募および、推薦委員による推薦応募を行なった。

- ・ 推薦委員は前選考委員を中心に依頼した。(4名の委員より応募)
  - ・ 昨年は新制度の準備期間として募集を行なわなかったもので、特にインターネットを活用した広報に力を入れた。結果、前制度での応募者34名(例年30名前後)に対して、51名の応募があった。
  - ・ 邦楽ジャーナルの掲載効果があり、伝統芸能での応募者が目立った(16名)
- E) 選出・・・申請書、推薦書、資料を基に助成顕彰事業選考委員会にて審議選考の上理事会で決定した

選考委員会

- 開催日 平成22年1月29日 17:00 ～ 19:00
- 出席者 建島哲委員長 石井和紘委員 葛西聖司委員 金子賢治委員  
茂手木潔子委員 以上5名全員出席  
北村誠理事(助成顕彰事業担当) 野呂芙美子理事  
寺脇研事務局長
- 選考方法
  - ◇ 事前に選考委員に全応募者の資料を送付し、閲覧を依頼。
  - ◇ 選考委員会当日、応募者から提出されたDVD、CD、ポートフォリオ、論文集、カタログ、パンフレット、著書、掲載書籍等を視聴及び回覧した。
  - ◇ 各委員から応募者に対する意見を出し合い、選出候補者を絞り、さらに審議し各委員の同意の上で、選出者を決定した。

F) 受賞者の決定 第29回理事会、評議員会にて決定

○創造する伝統賞 授賞事由

鈴木 俊哉(48歳) リコーダー奏者

推薦者：吉村七重(箏演奏家)

事由：リコーダーという楽器に伝統のコンセプトを加えて、個性的な奏法で日本の伝統楽器との共演に積極的に取り組み、あらたな境地を拓いている。これからの国際的な活躍が大いに期待される。

宮永 愛子(35歳) 美術家

推薦者：小池 一子(クリエイティブディレクター)

事由：まさにクラフトと現代美術との接点に位置する活動として注目される。オブジェ的な発想をインスタレーションとして展開する方法のユニークさも極めて注目される。

伊砂 利彦(85歳) 型絵染め作家、図案家

推薦者：中村昌生(財団法人京都伝統建築技術協会 理事長) \*推薦委員

事由：伝統的な型染め手法を用いて、新しいモダンなスタイルを確立した。大きな賞の受賞歴が無く、人間国宝のような日本国が認定する分野にも該当しない為、当財団の賞に相応しい。

G) 第1回日本文化藝術振興賞授賞式典の開催

- ◇ 開催日 平成22年3月26日(金)
- ◇ 会場 明治記念館
- ◇ 来場者数 約120名
- ◇ 内容 贈呈式、受賞者・受給者の紹介及び、祝宴

### 3. 文化藝術普及活動事業（寄附行為代4条(2)(5)(6)）

#### (1) 文化祭「杜の中の文化祭」

事業名 : 創造する伝統「杜の中の文化祭」

実施日 : 平成21年9月27日(日)

会場 : 明治神宮 神宮会館

主催 : 財団法人 日本文化藝術財団

監修 : 川口幹夫 (財団法人 日本文化藝術財団会長)

助成 : 日本財団

特別協力 : 明治神宮

後援 : 文化庁、江戸川区、江東区、渋谷区教育委員会、港区教育委員会、  
京都造形芸術大学、東北芸術工科大学

協力 : グレーター東京フェスティバル、東京伝統木版画工芸協同組合、  
NPO 法人日本剪画協会、株式会社パジコ、NPO 法人響

入場無料

来場者数 : 約1,000名

内容 :

「こどもの杜」～日本の伝統を体験しよう

江戸風鈴の絵付け、江戸木版画の摺りの実演と体験、江戸糸操り人形、あめ細工、日本のお茶を楽しんでみよう、杜の宝物、杜からの贈り物、杜の探検

「体験の杜」

- ・ 剪画（切り絵）でミニランプシェードを創ってみよう
- ・ 日本の香りを聞いてみよう

「杜の太鼓のワークショップ」

「杜の映画館」

- ・ 霧の中のハリネズミ
- ・ チェブラーシカ

#### ◎ 「四世今藤長十郎 長唄三味線公演」

<第1回>

実施日 : 平成21年5月6日(水・祝) 開演 : 15:00

会場 : 目白庭園 赤鳥庵

助成 : 日本財団

後援 : 京都造形芸術大学、東北芸術工科大学

参加費：一般3,000円 学生2,000円  
来場者数：50名（招待者含む）  
出演者：三味線 今藤長十郎、今藤長由利  
唄 今藤郁子、杵屋秀子

<第2回>

実施日：平成21年8月8日（土） 開演：17：00  
会場：目白庭園 赤鳥庵  
助成：日本財団  
後援：京都造形芸術大学、東北芸術工科大学  
参加費：一般3,000円 学生2,000円  
来場者数：60名（招待者含む）  
出演者：三味線 今藤長十郎、今藤長由利  
唄 今藤郁子、杵屋秀子

<第3回>

実施日：平成21年12月15日（火） 開演19：00  
会場：自由学園 明日館 講堂  
助成：日本財団  
協力：東京世田谷中央ロータリークラブ  
後援：京都造形芸術大学、東北芸術工科大学  
参加費：一般3,000円 学生2,000円  
来場者数：210名（招待者含む）  
出演者：三味線 今藤長十郎、今藤美治郎、今藤政十郎  
唄 今藤長一郎、今藤政貴、杵屋巳之助  
囃子 望月太津之、望月秀幸、梅屋右近、藤舎推峰、鳳声晴久

◎「茶論 四季おりおり」

<第1回 「行く春」>

実施日：平成21年4月22日（水） 13：30～15：30  
会場：目白庭園 赤鳥庵  
助成：日本財団、全日本社会貢献団体機構  
後援：京都造形芸術大学、東北芸術工科大学  
講師：伊達晟聰（香道研究家）  
参加費：1,000円  
参加者数：25名

<第2回 「夏来るらし」>

実施日：平成21年7月11日（土） 13：30～15：30

会場：目白庭園 赤鳥庵

助成：日本財団、全日本社会貢献団体機構

後援：京都造形芸術大学、東北芸術工科大学

講師：伊達晟聴（香道研究家）

参加費：1,000円

参加者数：21名

<第3回 「月を想う」>

実施日：平成21年11月15日（日） 一回目：13：30～ 二回目：14：45～

会場：明治神宮 隔雲亭

助成：日本財団、全日本社会貢献団体機構

後援：京都造形芸術大学、東北芸術工科大学

講師：伊達晟聴（香道研究家）

参加費：1,000円

参加者数：21名

<第4回 「春を運ぶ心」>

\*会場使用が初めてのため下見をかねてスタッフ勉強会を実施

実施日：平成22年3月11日（日） 14：00～16：00

会場：花みち（文京区白山）

助成：日本財団

後援：京都造形芸術大学、東北芸術工科大学

実施日：平成22年3月30日（火） 14：00～16：00

会場：偕香苑（清水谷公園内）

助成：日本財団

後援：京都造形芸術大学、東北芸術工科大学

◎ブログ「四季おりおり ー文化の香り、さんぽ道ー」

更新：毎月2回（1日、15日）

更新回数：24回

期間：平成21年1月1日～12月31日

アクセス数：6,774（月平均615.8）

URL <http://blog.canpan.info/shikioriori/>

## (2) 「川口塾」

内容：平成 20 年度実施した、日本の放送文化を作り上げた川口幹夫(元日本放送協会会長／元 NHK 交響楽団理事長／日本文化藝術財団会長)が、新しいメディアに対するコンテンツの構築の仕方、制作現場が効率良く動けるように監督する方法、日本における公益的なメディアのあり方などについて、自分の半生、仕事を振り返りながら、次の世代に伝える座談会の内容を小冊子に編集するための作業を実施した。

## (3) ホームページ

- ・ 「ブログ 四季おりおり」

\* 日本財団ブログサイト Canpan を利用。都内で見つけた季節の草花の写真を取り入れ、今年度は、四季おりおりの文学や歴史的人物などを伝えるブログを実施した。月二回更新。

文：伊達晟聴（香道研究家 「聞香」体験講師）

写真：前川千恵子（日本文化藝術財団）

アクセス数：約 7600（2008 年度のみ）

- ・ 情報開示
- ・ 事業告知

## ■ その他

- 平成 22 年 3 月 3 日 公益財団法人移行認定申請
- 平成 22 年 3 月 31 日  
特定公益増進法人であることの証明を得る